

王子グループの 価値創造

- 09 価値創造のあゆみ
- 11 At a glance
- 12 グローバル展開



価値創造のあゆみ

王子グループは1873年の創業以来、150年以上にわたり事業領域を拡大し、着実に成長を遂げてきました。時代の変化を的確に捉え、その都度求められる社会的ニーズに真摯に向き合いながら、柔軟に事業構造を変革してきました。近年では、持続可能な社会の実現に貢献すべく、国内事業で培った技術を積極的にグローバル展開しています。

創業期 1873-1909

近代洋紙産業の誕生

王子グループの起源は近代日本経済の祖・渋沢栄一の提唱による抄紙会社の設立にまで遡ります。渋沢は「製紙事業および印刷事業は文明の源泉」と考え、1873年(明治6年)に抄紙会社が設立されました。

抄紙会社はやがて王子製紙となり日本全国の産業の発展を下支えしていきます。



渋沢栄一(渋沢史料館所蔵)

確立期 1910-1945

国内自給体制の確立

拡大する紙需要に対応するため、紙づくりに必要な森林や水、広大で平坦な土地を求め、1910年、北海道に技術の粋を結集した苫小牧工場を開場しました。

これにより、新聞用紙は外国製から脱却し、国内自給体制を確立しました。



苫小牧工場(紙の博物館所蔵)

発展期 1946-1972

新たな技術への挑戦

戦後復興の中で、高品質な紙を迅速かつ大量に製造しようと、当時実績のなかった連続蒸解釜の生産性の高さに着目し、1951年、春日井工場に導入しました。さらに、1957年に新聞古紙を脱墨する技術を開発し、古紙利用に大きな道を拓きました。



1960年代の春日井工場

激動期 1973-1999

紙の多様化と環境への対応

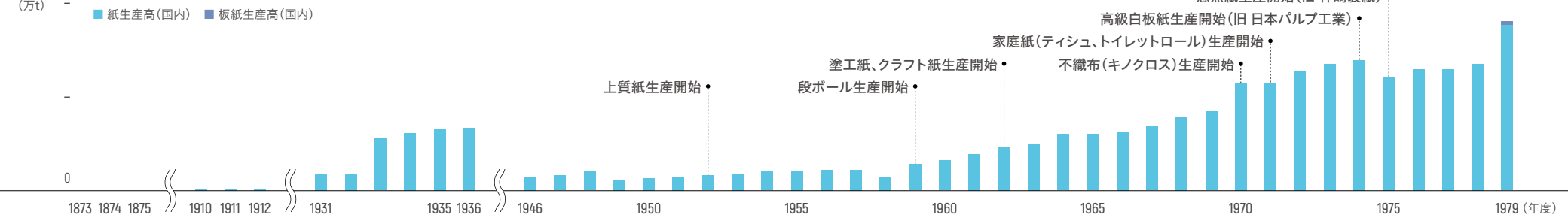
国民の生活が豊かになるにつれて人々のライフスタイルも大きく変化し、紙への期待が高まる中で、白板紙や感熱紙、家庭紙などの新製品の開発が進みました。また、製紙原料や市場を求めてグローバル展開を開始するとともに、工場での公害対策にも力を入れていきました。



1970年代にトイレットロール、ティッシュおよびタオルペーパーを発売開始

王子グループの動き	▶1873 抄紙会社設立	▶1933 富士製紙、樺太工業合併(三社合併) 大王子の時代	▶1949 三社分割 (苫小牧製紙、十條製紙、本州製紙) ▶1960 王子製紙に改称	▶1979 日本パルプ工業合併 ▶1989 東洋パルプ合併
世の中の動き	▶1868 文明開化 ▶1894 日清戦争 ▶1904 日露戦争	▶1918 第一次世界大戦終戦 ▶1930-1931 昭和恐慌 ▶1945 第二次世界大戦終戦	▶1955 三白景気 ▶1964 東京オリンピック	▶1973-1974 第一次オイルショック ▶1978-1982 第二次オイルショック

王子グループの紙・板紙・パルプ国内外生産高推移



価値創造のあゆみ

改革期 2000-

創造期

事業構造の転換とグローバル展開の拡大

2008年以降、紙の生産量は減少傾向にあり、国内市場の縮小が進む中、当社は東南アジアを中心に海外展開を加速させてきました。

近年では、液体紙容器事業を展開するイタリアのIPI社を2023年5月に、脱プラスチック包装分野で先進技術を有するフィンランドのWalki社を2024年4月にそれぞれ買収し、サステナブルパッケージ事業のグローバル展開をさらに強化しています。 [▶ サステナブルパッケージ P.29](#) [▶ 産業資材事業 P.35](#)

また、当社は事業の核である森林の機能を高めるとともに、長年培ってきたコア技術を最大限に活かした木質由来の新素材開発にも注力しています。次世代中核事業として位置づける木質バイオビジネスの育成に取り組んでおり、その一環として、王子製紙米子工場のインフラを活用し、2024年12月に国内最大級の木質由来糖液のパイロット製造設備を、2025年3月には木質由来エタノールのパイロット製造設備をそれぞれ立ち上げました。 [▶ 木質バイオマスビジネス P.31](#)

王子グループの動き

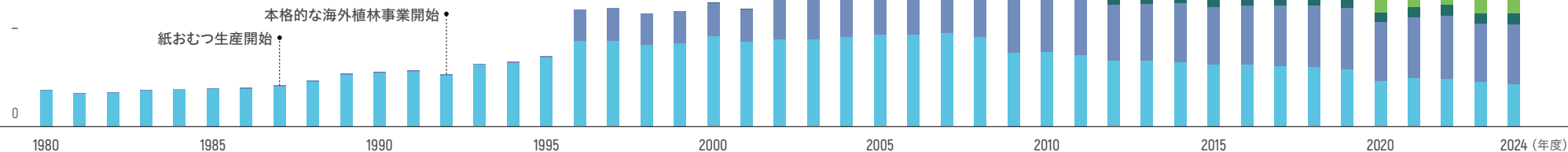
- ▶1991 Pan Pac Forest Products グループ会社化
- ▶1993 新王子製紙(神崎製紙合併)
- ▶1993 Albany Plantation Forest Company of Australia 設立
- ▶1994 Quy Nhon Plantation Forest Company of Vietnam 設立
- ▶1996 王子製紙(本州製紙合併)
- ▶2001 王子マテリア、王子コンテナ発足
- ▶2004 王子エフテックス発足
- ▶2005 森紙業グループ グループ会社化
- ▶2007 江蘇王子製紙 設立(中国)
- ▶2010 GSPP グループ会社化(マレーシア)
- ▶2011 Oji Papéis Especiais グループ会社化(ブラジル)
- ▶2011 Harta Group グループ会社化
- ▶2012 王子ホールディングスに移行
- ▶2012 王子イメージングメディア発足
- ▶2012 Celulose Nipo-Brasileira グループ会社化(ブラジル)
- ▶2014 Oji Fibre Solutions グループ会社化(ニュージーランド、オーストラリア)
- ▶2020 王子ファーマ 設立
- ▶2022 Adampak グループ会社化
- ▶2023 IPI グループ会社化
- ▶2024 Walki グループ会社化

世の中の動き

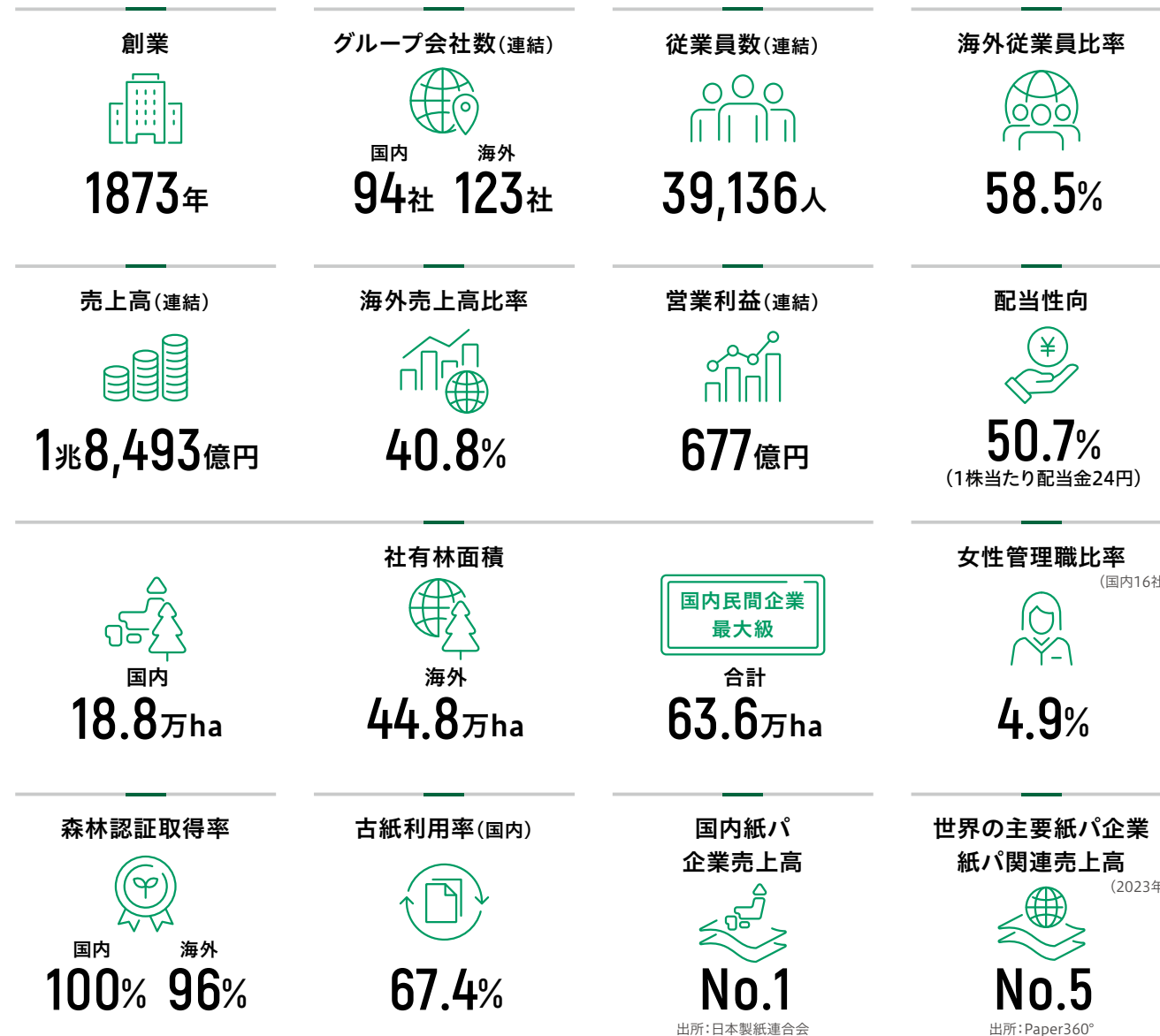
- ▶1991-1993 バブル景気崩壊
- ▶1997 京都議定書
- ▶2008 リーマンショック
- ▶2016 パリ協定発効
- ▶2020-2023 新型コロナウイルスの世界的流行
- ▶2021- ロシア・ウクライナ危機

生産高 1,000 (万t) 王子グループの紙・板紙・パルプ国内外生産高推移

■ 紙生産高(国内) ■ 板紙生産高(国内)
■ 紙生産高(海外) ■ 板紙生産高(海外) ■ パルプ生産高(海外)



At a glance



*記載のある場合を除き、2024年度(2025年3月末時点)データ。

数字で見る王子グループの事業

●生活産業資材 **国内 No.1**

板紙国内生産量シェア **25.8%**
 (2024年) *出所:日本製紙連合会



●機能材 **国内 No.2**

段ボール国内生産量シェア **22.3%**
 (2022年度) *出所:矢野経済研究所



●機能材

感熱紙国内販売数量シェア **約30%**
 (2024年度) *自社調べ



●資源環境ビジネス **世界 No.9**

外販パルプ生産能力
 (2024年度) *自社調べ



●印刷情報メディア

国内生産量シェア
 新聞用紙 **約30%**
 印刷・情報用紙 **約20%**
 (2024年) *出所:日本製紙連合会



At a glance

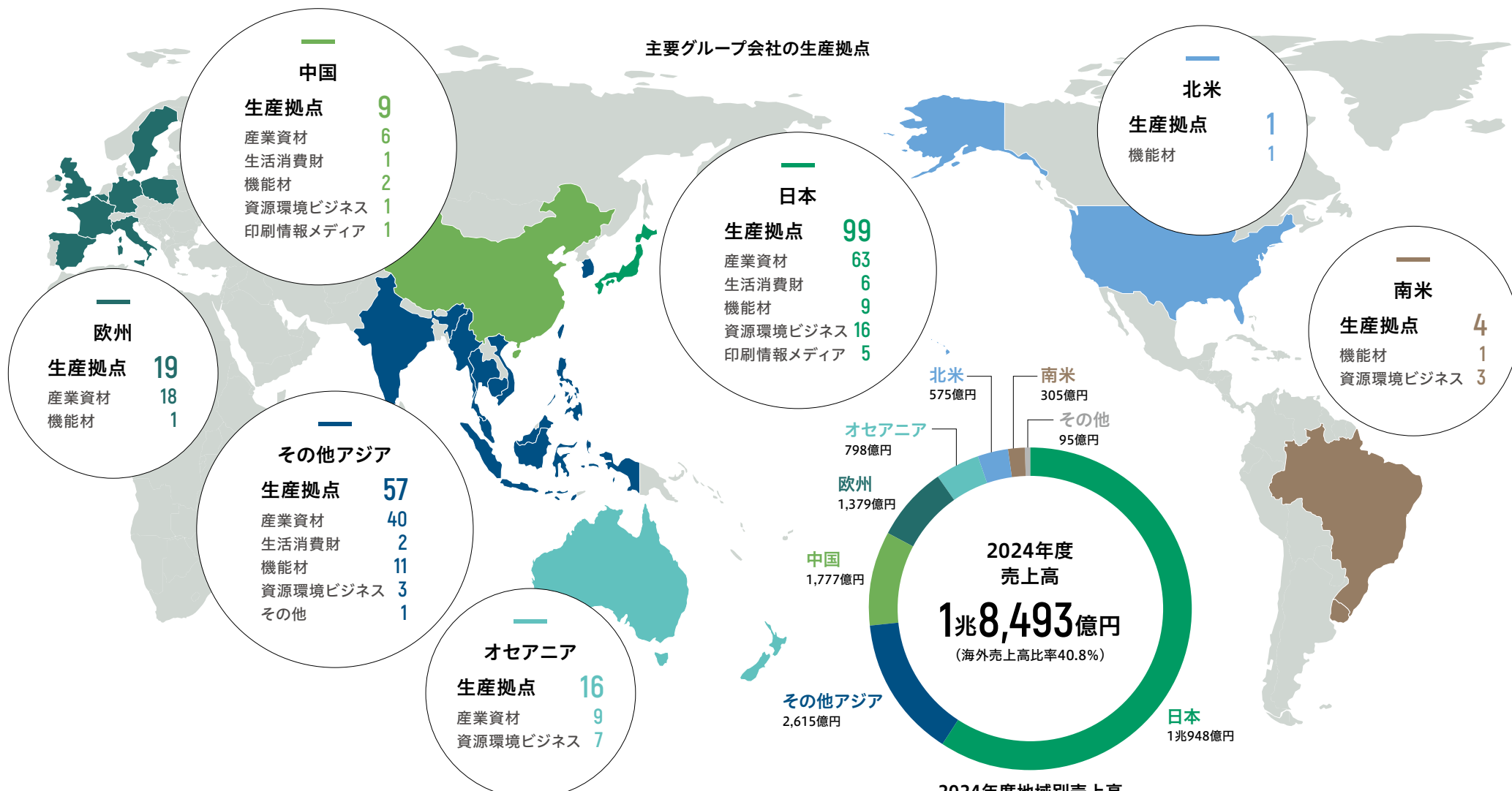
グローバル展開

王子グループは、日本に99カ所、海外24カ国に106カ所の生産拠点を有しており、多彩な製品をグローバル市場で展開しています。

1970年代にブラジル・ニュージーランドでパルプ生産を開始したのを皮切りに海外事業を推進し、海外売上高比率40.8%のグローバル企業として成長してきました。

重点エリアであるインド・東南アジアをはじめとして、今後ともさらなる生産・販売・サービスの拡大を目指します。

主要グループ会社の生産拠点



*1 2025年6月末時点、版社は除きます。複数の事業に携わる生産拠点については、事業別生産拠点数の内訳では重複して表記しています。

*2 集計範囲：国内は主要連結子会社、海外は連結・非連結子会社および持分法適用関連会社を対象

2024年度地域別売上高
(売上高は最終顧客の所在地ベース)

世界の王子の森 P.57